

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で感性を豊かに、生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的、先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」（平成 30 年度 54.7%）を毎年 5% 引き上げ、平成 31 年度には 63% にする。

2 教育センターと一体となった授業改善

(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校にその成果を発信する。

- ア カリキュラムマネジメントの実践を重ね、成果を府立学校へ発信していく。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を行い、成果を府立学校へ発信していく。
- ウ 実力テスト・授業研究月間等を活用した授業改善の手法を実践し、成果を府立学校へ発信していく。

(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。

- ア 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

3 多様な価値を認める人間性のはぐくみ

(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。

- ア 安心して学校生活を送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答を（平成 30 年度 82.6%）を毎年 3% 引き上げ、2021 年度には 90% にする。

(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。

- ア 探究ナビをキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。
- イ 自ら学びに向かう力を育成し、授業以外での学習習慣を付けさせる。また、関西の中堅の大学への合格者を 70 人以上、難関大学等への合格者を輩出する。
- ウ 中高連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（平成 30 年度 73.4%）を毎年 3% 引き上げ、平成 31 年度には 80% にする。

4 安全で安心な学びの場づくり

(1) 生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。

※学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（平成 30 年度 63.2%）を毎年 5% 引き上げ、平成 31 年度には 73% にする。



【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある（38.9%→46.4%） ・授業では実験・観察・実習したりすることがある（28.0%→40.0%） ・コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある（67.5%→73.1%） ・学校行事は充実して楽しい（53.7%→60.7%） <p>○肯定的評価が減少した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は真剣に自分の事を考えて指導してくれていると思う（66.2%→61.6%） ・防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている（75.3%→68.2%） <p>【保護者】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている（46.8%→53.8%） <p>○肯定的評価が減少した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は保護者の相談に丁寧に応じている（84.3%→76.7%） 	<p>【第 1 回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイロット校として来年 10 年目を迎え、成果は着実に上がっていると感じる。日本の学校文化の良い部分は残し、変える部分は変えるバランス感覚で、先導的な取組みを続けてほしい。 ・多様な価値を認め、バランスの取れた生徒の育成に努めてもらいたい。 ・安全で安心な学びの場づくりに、住吉区合同避難訓練に参加しているが、住吉区地域活動協議会の地域見守り支援システムと連携してはどうか。 ・若い世代と接していると、コミュニケーション能力の乏しさを感じるがあるが、センター附属高校は「探究ナビ」等の授業でコミュニケーション能力の育成に力を入れているので、ぜひそういった取組みに力を入れていただきたい。 ・どんどんチャレンジして大学進学を実現しようという生徒が増えているということでもあるので、対策をして、支援をしていただきたい。

<p>・学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている（73.4%→65.6%）</p> <p>・学校の生徒指導方針に共感できる（76.8%→68.9%）</p> <p>【教職員】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <p>・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている（53.5%→70.3%）</p> <p>・カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている（74.4%→91.9%）</p> <p>・すべての教育活動において人権を尊重した教育がなされている（81.4%→94.6%）</p> <p>・教職員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある（70.5%→81.6%）</p> <p>○肯定的評価が減少した主な項目</p> <p>・全ての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫を凝らすなど自律的な風土がある。（79.1%→75.7%）</p> <p>今年度のアンケート結果は、生徒回答 23 項目中 17 項目において、肯定的回答が増加し、そのうち6項目で7割以上の肯定的回答であった。授業研究委員会や校内研修による授業改善の取組み、基礎学力定着をめざした取組みの成果と考えられる。</p> <p>生徒・保護者の回答のうち、肯定的回答が8割以上の項目は、[生徒]⑦「クラスには自分の居場所がある」（81.6%）、[保護者]⑦「生徒の安全に努めている」（80.6%）、[保護者]⑧「子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」（80.1%）、[保護者]⑯「部活動は、活発に行われている」（82.2%）である。また、授業に関する項目では、生徒回答4項目中3項目で肯定的回答が伸びたものの、教員の対応に関する項目では、[生徒]⑰「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」（63.2%→60.8%）のように一部の項目で肯定的回答が減少したのもあるので、これらについては、次年度に回復できるように取り組む。</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科「探究」で学ぶ社会人基礎力は、すぐに役立たなくても触れることが大切。しかし、生徒が思うより実際は出来ないことが多いのでチェックしてはどうか。 ・話すことやコミュニケーション能力は伸びているが、文章を書くことが苦手と感じている生徒もいるようなので、基礎教育（文章の書き方など）にも努めてほしい。 ・英語は他教科（国語、数学）と比較して家庭学習の時間等に違いはないが、学び甲斐を感じている生徒が多い。学び甲斐を感じた後に、実際の学習にどのようにつなげていくかが課題である。外部テストなど、さまざまなコンテンツを活用し、自主的な学びの育成につなげてほしい。 ・教科「探究」を通して自主的な学びを探究し、社会のニーズに応える形でプランが練られているので、今後も社会に通用する力を育成し、新学習指導要領のモデルケースとして他校をリードしてほしい。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒はインターネット等ネットで調べる環境にあり、そこに依存しがち。図書を利用するということが高校生には学んでほしい。 ・教科活動、学習活動など、狭い意味での学校活動を評価しているように思う。文化祭・課外活動・部活動・生徒指導の状況など、教育活動の学習面以外の部分の評価も取ることが学校の総合的な評価につながるのではないかと。 ・細かい誤差は気にせず、全体の傾向を大まかにつかむことをすべきかと思う。 ・先生たちの技術の向上が感じ取れるのはすごいことだと思う。 ・どのように能力が向上したのか、取組み後の成果を教えてください。 ・今後の課題を分析し、対策を見直し、成果につなげてほしい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)基礎学力の定着をめざした授業改善</p> <p>ア) 知識・技能の活用と思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>イ) 学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ) 図書室の整備と読解力の充実</p>	<p>(1)基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア) 授業研究委員会、教科会議において、実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p> <p>イ) 各教科で付けたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れる。</p> <p>ウ) すべての教科で、読解力の育成をめざした取組みを実施する。PTAの協力のもと、引き続き図書室の整備を進める。</p>	<p>ア) 考查問題に活用力をみる設問を取り入れるとともに、アンケートにより、生徒の変容を見る。</p> <p>イ) 学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率 57%以上（平成 30 年度 54.79%）「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率 45%以上（平成 30 年度 38.9%）</p> <p>ウ) 図書室の利用者数を前年比と同規模を維持する。（平成 30 年度、441 人（含む授業）、平成 29 年度 66 人）</p>	<p>ア) 学力定着テストや実力テスト、授業アンケートの結果を各教科で分析し、授業研究を実施。定期考査の結果や生徒の振り返りシート等も活用し知識・技能の定着を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート「知識・技能が身に付いたと感じる」昨年度比 0.08P 増 (○) ・次年度も調査結果等を有効に活用し、指導体制を維持する。 <p>イ) 学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率 53.9% (△)、「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率 46.4% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、これまでの授業研究にかかる取組みが定着するよう、継続的に進めていく。 <p>ウ) 前年度と同規模としたが、利用者数は 119 人（含む授業 2,399 人）（12 月末現在）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、図書委員活動での啓発（図書新聞の発行等）、授業（教科「探究」等）での利用を進めるとともに、様々な活用方法の周知や新刊図書の案内等を工夫し、読書への興味・関心を喚起していきたい。(○)

大阪府教育センター附属高等学校

<p>2</p> <p>教育センターと一体となった授業改善</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践 ア)カリキュラムマネジメントの実践 イ)観点別学習状況評価の研究・実践 ウ)実力テスト等を活用した授業改善</p> <p>(2)探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践 ア)「社会人基礎力」の育成</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、その成果を他の府立高校に発信するとともに、校内においても周知する。 ア) 各教科での学びを共有し、教科間で補完し合いながら学べるようにする。 イ) すべての教科で観点別学習状況評価を意識した設問を考査に取り入れる。 ウ) 実力テスト等の結果から、明確となった課題を共有し、各教科の授業改善に生かす。</p> <p>(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。 ア) 各教科で「社会人基礎力」(現実の社会で必要となる力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p>	<p>(1) ア) 生徒等へのアンケート調査で効果を検証する。 イ) 生徒への授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。(平成 30 年度 3.1) ウ) 前年までの試行実施と合わせ、診断結果を分析し、課題を洗い出す。</p> <p>(2) ア) 生徒等へのアンケート調査で効果を検証する。</p>	<p>(1) 教育センターの研究フォーラムで授業研究の取組み(今年度は「探究ナビ」)の成果を発表した。 ア、イ) 年度初めに、各教科の授業研究の目標を考え、毎月定例の授業研究委員会や校内研修において進捗状況を確認、共有した。また、各教科の授業研究計画や研究授業に関わる成果物を校内フォルダーで共有し、自由に閲覧・活用を可能にした。 ・授業アンケート「興味・関心を持つことができた」「知識・技能が身に付いた」と感じる割合：昨年度比 0.09P 増 (○) ウ) 学力定着テストや実力テストの結果を各教科で分析を行い、各教科内で課題を共有し、授業研究に活かす材料となるよう進めている。 ・次年度も引き続き、業者テスト等を活用し、校内研修等を通して、学習課題の共有、改善を進めていく。あわせて、主体性を伸ばすためにポートフォリオの指導も継続し、実力テスト時のアンケートの相関性も検証し、指導に生かす (○) (2) ア) 教科「探究」を中心に、育成を図っている「主体性のある実行力、考え抜く力、チームで働く力」等について、「知識や技能が身に付いた」と感じる割合：前年度比 0.05P 増 (○) ・次年度は、今年度の成果を踏まえ、興味・関心を持って、主体的に取り組めるよう更なる改善を行う。</p>
<p>3</p> <p>多様な価値を認める人間性のはぐくみ</p>	<p>(1) 多様性を認めて共生する集団づくり ア)居場所としての集団づくり イ)課題の早期発見 ウ)情報リテラシーの育成 (2)ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成 ア)活用型の授業の推進 イ)学ぶ力と学習習慣を定着 ウ)教育相談体制及びガイダンス機能の充実</p>	<p>(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。 ア) より良い人間関係が構築できるように、クラスづくりの導入となる活動を取り入れ、安心感のある集団づくりをめざす。人権ホームルームや各授業において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。 イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会等を共有し、問題が深刻化しないような体制づくりを進める。 ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行う。</p> <p>(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。 ア) 探究ナビ(人とつながる、社会とつながる、未来を拓く)をキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む</p>	<p>(1) ア)・学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 80%以上(平成 30 年度 72.3%) ・学校教育自己診断(生徒)で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 85%以上(平成 30 年度 82.6%) イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 66%以上(平成 30 年度 63.2%) ウ) SNS 等、ネット上での課題の減少</p> <p>(2) ア) 学校教育自己診断(保護者)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率 85%以上(平成 30 年度 86.1%)、同診断(生徒)で「将来の進路や生き方について考え</p>	<p>(1) ア) 探究ナビの導入プログラムについては、全体研修を行い、内容の充実を図った。人権・教育相談研修(全体研修):1回。パワーアップ研修:年間4回行った。実施時期を精査し、より多くの参加者となるよう実施していく。 ・学校教育自己診断(生徒)の肯定率発表の機会 74.8%、目標には届かなかったものの、昨年度よりやや向上することができた。(○)クラスの居場所 81.6、目標には届かなかったものの、引き続き良い状態を維持している。(○) イ) 教員へのアンケートでは、「人権尊重」の肯定率:94.6%、「生徒保護者の声に耳を傾け応える努力」の肯定率:89.2%。保護者へのアンケートでは、「きめ細かい多面的なサポート」の肯定感:65.6%、「いじめへの真剣な対応」の肯定感:72.4%。生徒へのアンケートでは、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率:60.8%。「先生は真剣に自分のことを考えて指導してくれている」の肯定率:61.6%。教員の真剣さは一定理解されているものの、自分にとって満足できるところに至っていないと考えられる。次年度は、この差が縮まるよう取り組む。(△) ウ) 1年生のオリエンテーションや情報の授業、また、生徒集会で生徒に啓発活動を行った。生じた該当事象は、3件であった。今後も引き続き、スマートフォン等の使い方を学ぶ機会を持つ。 (2) ア) 探究ナビⅡ(テーマ「社会とつながる」)において、将来の進路を見据えたキャリア教育に取り組んだ。 ・学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」保護者の肯定率:79.2%(昨年度比-6.9)(△)「将来の進路や生き方について考える機会がある」生徒の肯定率:79.7%(昨年度比-1.5)(△)</p>

		<p>イ) 入学当初の学習時間が確保できるよう、適切な課題を設定し、授業以外に学習しやすい環境を整える。また、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。</p> <p>ウ) ・近隣中学校との日常的な繋がりを図ることで、入学後の教育相談に活かす。 ・多様な進路を実現するため、相談しやすい体制づくりを進め、将来を見据えた科目選択を支援する。また、相談体制を整えるための教員研修を実施する。 ・複数顧問等による役割分担、終了時間を定めた会議の運営により、相談時間が確保できるようにする。</p>	<p>る機会がある」の肯定率 85%以上(平成 30 年度 81.2%)</p> <p>イ) ・アンケート調査で実態を把握し、ほとんど学習しない生徒の数を減少させる。 ・生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」の全平均が、3.3 以上(平成 30 年度 3.0) ・関西の中堅の大学への合格者を 70 人以上。また、難関大学等への合格者を輩出する。</p> <p>ウ) 学校教育自己診断(教職員)で「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定率 80%以上(平成 30 年度 79.1%)</p>	<p>イ) ・「ほとんど学習しない生徒の割合」(※2年は4月、1年は8月をそれぞれ 100 としたときの増減比を示している) 2年(4月→8月4%増→1月4%減) 1年(8月→1月8%減) (○) ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」平均 3.1。(○) ・近畿大学等関西の中堅大学への合格者は、85 名であったまた、難関大学への合格者も出すことができた。次、次年度も大学進学者を含め、進路希望の実現をめざす。(○)</p> <p>ウ) ・近隣中学校へのガイダンスや出前授業、高校体験等を、延べ6回実施。広報の一環としてすべて広報委員会委員長(教頭)と広報委員会主担(指導教諭)が担当した。(○) ・学校教育自己診断(教職員)「近隣の学校との交流、地元とのつながり」の肯定率:64.9%(昨年比+4.4)。地元地域への学校行事の案内、近隣小学校との交流を行った。(○) ・学校教育自己診断(教職員)で「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定率:89.5%。(◎)</p>
<p>4 安全で 安心な 学びの 場づく り</p>	<p>(1)生徒が安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)危険予知及び緊急事態への対応能力の向上 イ)相談できる環境の整備 ウ)いじめ防止のための教職員集団</p>	<p>(1)生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。 ア)河川堤防の決壊等、懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施するとともに、効果的な安否確認体制を整える。 イ)教科の準備室や職員室付近で気軽に質問や相談ができる場を拡充する。 ウ)アンケート等を効果的に活用し、課題の把握に努めるとともに、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。</p>	<p>(1) ア)計画どおりに実施する。 イ)空き教室の机等を有効利用し、フリースペースの活用を試みる。 ウ)アンケート等への発信量を検証する。</p>	<p>ア)今年度の訓練は地震(火災も想定)について行った。また、「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用し、防災士を講師として招聘した講演を行うとともに、現行マニュアルの改訂に向けて、アドバイスをもらった。次年度に向けて改訂を継続する。地元住吉区主催「総合防砂訓練」に参加した。(○) イ)空いた教室について、安全・安心を意識した活用方法について、将来構想委員会から提案し、企画運営委員会・職員会議で内容を議論した。大和川の氾濫を想定し、生徒用及び教職員用の防災備蓄品の保管場所を検討した。具体的な移動のスケジュール、方法等を検討している。(○) ウ)いじめに関するアンケートの結果だけでなく、その後の対応についても、各学年でより迅速に対応し、統一した記録用紙で状況を共有した。アンケートの自由記述欄に記入のあった生徒数は、10名(昨年度17名)で、教職員により速やかに対応した。 ・次年度も引き続き、生徒が教員に相談しやすい環境作りといじめ等の早期発見及び対応(共有と記録を含む)の「いじめ対策委員会」等の体制充実に努めたい。(○)</p>